



一般教育演習(フレッシュマンセミナー)

グローバル・キャリア・デザイン2

第28回ファースト・ステップ・プログラム オンライン

全体報告書

2021/3/1～2021/3/11

ベトナム インドネシア タイ シンガポール エストニア フィンランド



目次

第 28 回 FSP オンラインについて	2
ファースト・ステップ・プログラム (FSP) とは	3
第 28 回 FSP オンライン概要	3
研修内容	3
研修日程	4
グループ活動概要	5
参加メンバー紹介	6
担当教職員	10
研修報告① 事前学習	11
事前授業	12
オンライン交流会・全体学習会・オンライン雑談会	13
研修報告② 協定大学	14
Chulalongkorn University	15
Singapore Management University	17
International University- Vietnam National Ho Chi Minh City	19
University of Tartu	21
Aalto University	23
研修報告③ 企業・団体等	25
特定非営利活動法人 Seed to Table 伊能 まゆ 様	26
三井物産株式会社 水野 慎介 様	
株式会社ニッポン 座間 富美彦 様	
三井化学株式会社 郡司 達也 様	28
Nordic Ninja VC (JB Nordic Ventures Oy) 宗原 智策 様	30
国際連合児童基金 (UNICEF) 伏見 暁洋 様	32
Prime Business Consultancy Pte Ltd 川村 千秋 様	34
研修報告④ 事後学習	36
振り返りミーティング	37
事後授業	39
参加者の声	40
終わりに	42
謝辞	42
編集後記	43

第 28 回 FSP オンラインについて

ファースト・ステップ・プログラム(FSP)とは

第 28 回 FSP オンライン概要

研修内容

研修日程

グループ活動概要

参加メンバー紹介

担当教職員一覧

ファースト・ステップ・プログラム(FSP)とは

全学教育科目の「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）：グローバル・キャリア・デザイン」
として開講している授業科目であり、本学内外で提供される様々な海外プログラムに挑戦する最初
の一步となることを目的とし、ファースト・ステップ・プログラムの通称で広く知られています。

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により海外渡航を伴う学生派遣が困難であることから、
2020 年度「グローバル・キャリア・デザイン 2」は第 28 回 FSP オンラインとして実施されまし
た。欧州・アジア各国に在る本学の海外協定校で授業参加や学生交流を行い、グローバルに事業を
展開する企業や国際機関等で活躍する方々の御講話を拝聴しました。

第 28 回 FSP オンライン概要

研修期間：2021 年 3 月 1 日（月）～ 3 月 11 日（木）

研修先：ベトナム社会主義共和国、インドネシア共和国、タイ王国、シンガポール共和国
フィンランド共和国、エストニア共和国

参加人数：41 名

費用：無料

個人負担：カメラ、マイク機能が備わったパソコン等の通信機器
安定したインターネット環境

研修内容

協定大学での授業参加及び学生交流

協定大学とオンライン上で繋がり、英語による授業参加や学生交流を行いました。学生交流では、
互いの大学についてのプレゼンテーションや、コロナ禍での近況報告を交えたディスカッションを
し、国によって異なる文化や価値観に対する理解を深めることができました。

企業・団体等での御講話

ベトナム、インドネシア、シンガポール、フィンランドの各国でご活躍されている方々に御講話
いただき、仕事内容や海外で働くための極意に加え、大切にしている人生観などを深く学びました。
海外で活躍されている方々から直接学びを得ることができる大変貴重な機会となりました。

研修日程

日付	時間	開催都市	授業内容
3/1 (月)	15:00-16:30 18:00-19:30	ホーチミン ジャカルタ	Seed to Table 伊能 まゆ 様 による御講話 株式会社ニッポン 座間 富美彦 様 三井化学株式会社 郡司 達也 様 三井物産株式会社 水野 慎介 様による御講話*
3/2 (火)	15:00-18:00	バンコク	Chulalongkorn University 授業参加
3/3 (水)	13:50-15:00 17:00-18:30	バンコク ヘルシンキ	Chulalongkorn University 学生交流 Nordic Ninja VC (JB Nordic Ventures Oy) 宗原 智策 様による御講話
3/5 (金)	11:00-12:00 15:00-17:00	バンコク シンガポール	国際連合児童基金 (UNICEF) 伏見 暁洋 様による御講話 Singapore Management University 学生交流
3/8 (月)	11:00-12:15 12:30-15:00	ホーチミン	International University- Vietnam National University Ho Chi Minh City 学生交流 & 授業参加

第28回 FSP オンラインについて

3/9 (火)	17:00-17:55 17:55-18:55	タルトゥ	University of Tartu 授業参加 & 学生交流
3/1 (水)	16:00-17:30	エスポー	Aalto University 学生交流
3/1 (木)	10:30-12:00	シンガポール	PRIME BUSINESS CONSULTANCY PTE LED 川村 千秋 様による御講話

※御三方から順番に御講話をいただきました。

グループ活動概要

研修先でより良い学びを得るために各グループが分担をして以下の活動を行いました。

- **全体学習会及びオンライン交流会の企画・運営**
支援員及び担当教職員の皆様との交流会や、研修先について共に学ぶ全体学習会の企画と運営
- **研修先の協定大学や企業等、国及び都市に係る調査・報告**
各グループによる研修先の調査と全体学習会における報告
- **協定大学プレゼンテーション**
協定大学研修時における北海道大学の魅力についてのプレゼンテーション
- **御礼状の作成**
研修先である協定大学の担当者様や企業や団体の御講話者様への御礼状の作成
- **研修先報告書の作成**
研修での学びや今後の抱負について記載した研修報告書の作成
- **成果報告会広報**
成果報告会に関する広報
- **成果報告会プレゼンテーション**
成果報告会における研修での学び等についてのプレゼンテーション
- **全体報告書の編集**
各研修先の報告書の編集と全体報告書の作成

参加メンバー紹介

第28回 FSP オンラインでは、FSP 生 41 名の中からリーダー1名とサブリーダー2名が立候補で選出され、上記の活動の他にスケジュール管理やミーティングの司会進行などを担当し、本活動全体のまとめ役を担いました。また、各グループリーダーは、活動全体を円滑に進めるためリーダー会議での現状報告やグループメンバーへの情報共有を行いました。Facebook 担当は、FSP の広報のため定期的に記事の投稿を行い、FSP 生にとって研修先の理解に資する情報を提供しました。

以下にグループごとの活動内容と共に参加メンバーを写真と併せて紹介します。

役職の略称

《リ》 → 《リーダー》 《サブ》 → 《サブリーダー》

《グ》 → 《グループリーダー》 《FB》 → 《Facebook 担当》

〈グループ1〉

- ・ 協定大学調査・報告
- ・ 協定大学プレゼンテーション
- ・ オンライン成果報告会広報
- ・ 研修報告書の作成



(左上から時計回り、以下同様)

大屋 壱世 (工学部 2年)

郡山 結人 (総合理系 1年)

田原 実遊 (法学部 2年) 《FB》

吉田 翔稀 (経済学部 1年) 《FB》

山田 美希 (総合理系 1年) 《グ》

〈グループ2〉

- ・ 協定大学調査・報告
- ・ 協定大学プレゼンテーション
- ・ 研修報告書の作成
- ・ 全体報告書の編集



梅本 彩香 (総合理系 1年) 《グ》

川手 紅梨子 (総合文系 1年)

三村 雄真 (経済学部 2年) 《FB》

千葉 泰史 (農学部 2年)

第28回 FSP オンラインについて

〈グループ3〉

- ・ 協定大学調査・報告
- ・ 協定大学プレゼンテーション
- ・ 研修報告書の作成
- ・ 御礼状の作成



都地 悠馬 (総合理系 1年) 《グ》《FB》
正田 晟 (総合理系 1年)
新見 涼太 (農学部 2年)
山口 莉歩 (経済学部 2年)
松原 康稀 (法学部 1年) 《サブ》

〈グループ4〉

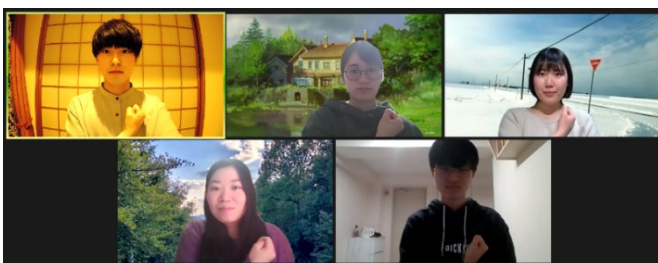
- ・ 国及び都市に係る調査・報告
- ・ 協定大学プレゼンテーション
- ・ 研修報告書の作成
- ・ 御礼状の作成



小野寺 真輝 (工学部 1年) 《グ》
木立 真凜 (農学部 2年) 《FB》
齊藤 美沙 (経済学部 2年)
山北 瑛伍 (総合理系 1年) 《FB》
高橋 りと (総合理系 1年) 《サブ》

〈グループ5〉

- ・ 企業等調査・報告
- ・ 全体学習会及び交流会の企画・運営
- ・ 研修報告書の作成
- ・ 成果報告会プレゼンテーション



木下 立也 (経済学部 2年) 《グ》
佐伯 彩 (獣医学部 1年)
坂井 佑衣 (農学部 2年)
不破 拓人 (総合理系 1年) 《リ》
高松 志帆 (総合理系 1年) 《FB》

第28回 FSP オンラインについて

〈グループ6〉

- ・企業等調査・報告
- ・御礼状の作成
- ・研修報告書の作成
- ・成果報告会プレゼンテーション



古岡 大知 (経済学部 2年)
平川 ひとみ (農学部 2年)
芹沢 孝輔 (総合理系 1年) 《FB》
廣瀬 健 (理学部 1年)
江角 理沙子 (水産学部 1年) 《グ》

〈グループ7〉

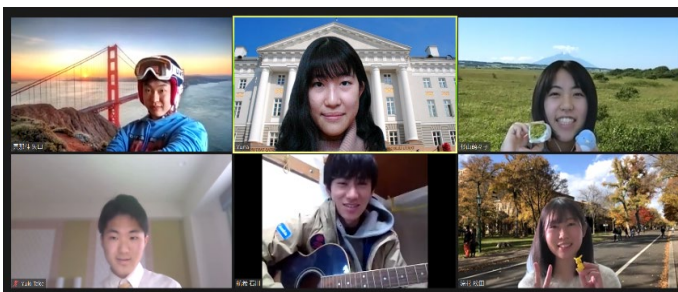
- ・企業等調査・報告
- ・御礼状の作成
- ・研修報告書の作成
- ・成果報告会プレゼンテーション



結城 心太朗 (文学部 1年) 《グ》
伊藤 楓 (薬学部 2年)
入澤 栞音 (農学部 1年)
鈴木 誠也 (理学部 1年)
金子 新太郎 (教育学部 2年) 《FB》
大塚 彩加 (工学部 2年)

〈グループ8〉

- ・オンライン交流会の企画・運営
- ・御礼状の作成
- ・研修報告書の作成
- ・成果報告会プレゼンテーション
- ・国及び都市に係る調査・報告



矢口 真那斗 (理学部 1年) 《FB》
鶴飼 夕菜 (農学部 1年) 《グ》
杉山 萌々子 (獣医学部 2年) 《FB》
松田 涼花 (経済学部 1年)
石川 航希 (総合理系 1年)
武 優喜 (文学部 2年)

第28回 FSP オンラインについて

〈支援員・先輩ボランティア〉

先輩 FSP 生である支援員とボランティアの皆様は、私たちが活動を円滑に進めるために多角的なサポートをしてくださいました。

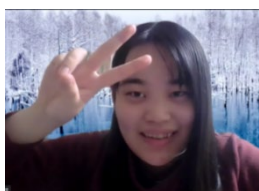
以下に支援員の皆様のお名前、所属、FSP 参加回及び担当グループを写真と併せて紹介します。なお、リーダーズとはリーダーとサブリーダーのみのグループを示しています。



高橋 大雅 支援員
医学部 4年
第20回 FSP 欧州
リーダーズ、グループ 2



栗原 恭子 支援員
理学部 2年
第26回 FSP アジア
リーダーズ、グループ 1



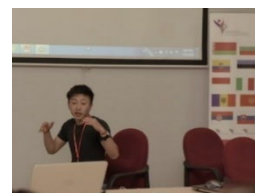
今井 ゆき菜 支援員
生命科学院 1年
第19回 FSP アジア
グループ 1、グループ 7



内林 大志 支援員
環境科学院 1年
第23回 FSP アジア
グループ 1、グループ 6



森本 衣美 支援員
工学院 1年
第21回 FSP アジア
グループ 2



池谷 航 支援員
農学部 4年
第19回 FSP アジア
グループ 2



和泉 輝 支援員
経済学部 3年
第24回 FSP 欧州
グループ 3



奥田 晃崇 支援員
工学院 2年
第16回 FSP アジア
グループ 3、グループ 6



最知 俊介 支援員
法学部 2年
第26回 FSP アジア
グループ 3



神明里 支援員
文学院 1年
第19回 FSP アジア
グループ 4、グループ 8

第28回 FSP オンラインについて



逢坂 はるの 支援員
理学部 4年
第24回 FSP 欧州
グループ 4、グループ 5



孫 津韜 支援員
情報科学院 2年
第17回 FSP 北米
グループ 5



佐藤 裕也 支援員
農学部 3年
第25回 FSP アジア
グループ 6



竹鼻 大貴 支援員
総合科学院 2年
第19回 FSP アジア
グループ 7



角田 亮平 支援員
工学部 2年
第26回 FSP アジア
グループ 7



米田 夏輝 支援員
経済学部 4年
第21回 FSP アジア
グループ 8

また、ボランティアとして山根 美海さん、東城 佑樹さんにサポートしていただきました。

担当教職員一覧(敬称略、順不同)

教員

北海道大学 高等教育推進機構 講師 川端 千鶴
北海道大学 客員教授 井上 修平
北海道大学 高等教育推進機構 特任教授 荒井 克俊
北海道大学 高等教育推進機構 特任講師 肖 蘭

事務スタッフ

北海道大学 学務部 国際交流課 石倉 香理
北海道大学 学務部 国際交流課 中島 百恵
北海道大学 学務部 国際交流課 川添 沙弥佳
北海道大学 学務部 国際交流課 葛西 諒子

研修報告① 事前学習

事前授業

第1回事前授業：12月16日（水）

第2回事前授業：2月17日（水）

第3回事前授業：2月24日（水）

オンライン交流会：1月13日（水）、2月10日（水）

全体学習会：2月25日（木）

オンライン雑談会：不定期開催

事前授業

事前授業は、12月中旬から2月下旬にかけて計3回、全てオンラインで行われました。

第1回事前授業：12月16日（水）

第1回事前授業では、はじめに荒井先生、肖先生、井上先生、川端先生、そして事務スタッフの皆様が紹介され、FSP生同士はブレイクアウトルームで自己紹介を行いました。簡単なアイスブレイキングをした後は、授業の概要や課題、受講にかかる事項の説明が行われました。最後に、リーダーとサブリーダーの決定も行いました。初めての顔合わせで、なおかつオンラインということもあり、FSP生一同緊張した様子でした。

第2回事前授業：2月17日（水）

第2回事前授業では、研修中に交流先の大学に向けて行うプレゼンテーションがグループ1～4のFSP生によって行われました。各グループの発表後、質疑応答が行われ、全体の講評を先生方からいただきました。後日、発表に対するフィードバックをFSP生全員からもらい、グループ1～4はより良いプレゼンテーションに向け、グループミーティングを通して、修正に修正を重ねていきました。

第3回事前授業：2月24日（水）

第3回事前授業では、授業当日までにオンデマンドの動画で井上先生、川端先生、荒井先生によるキャリアについてのお話を拝聴した上で、授業前半では先生方とのそれらについての質疑応答を行いました。授業後半では、各FSP生が自身のキャリアデザインについて、事前に記入したワークシートをもとに、ブレイクアウトルームで紹介し合いました。FSP生一人ひとりの興味・関心に基づいたキャリアデザインがあり、どれも素晴らしいものでした。

オンライン交流会：1月13日（水）、2月10日（水）

1回目のオンライン交流会では、FSP 生同士でお互いの親睦を深めるためにゲームを行いました。ゲーム内容は「積立式自己紹介」と「ワードウルフ」でした。第1回事前授業以降、他グループの FSP 生とは交流があまりできていなかったため、どのような学生が FSP に参加しているのかを知る良いきっかけとなりました。2回目のオンライン交流会では、支援員の方々から、FSP での活動や海外留学について、また、留学先での出来事や印象に残っていることなど、様々なことを教えていただきました。多くの受講生にとってこれから始まる研修をどのように活かすのか、深く考えるきっかけとなりました。加えて、研修への不安などを気軽に相談させていただける関係性につなげることもできました。

全体学習会：2月25日（木）

全体学習会では、各グループが調査した研修先の企業や団体、大学、国について代表者が発表し、FSP 生同士で学び合いました。また、研修先の国についても併せて学ぶことができ、企業や団体、大学に関する知識だけでなく、現地に根付いた文化なども感じ取ることができました。また、今回は 6 カ国にまたがった研修先を FSP 生全員で分担して調査し、発表したため、より多くのことを包括的に学ぶことができました。

オンライン雑談会：不定期開催

第 28 回 FSP オンラインでは、全ての活動がオンラインに制限されており、コミュニケーションが取りづらい状況でした。そのため、多くの FSP 生ともっと話をしたいという想いのもと、オンライン雑談会が不定期で開催されました。雑談会では、各 FSP 生と共に FSP に参加した目的や海外への想い、将来の夢や趣味などをざっくばらんに話し、より親睦を深めました。（文責：千葉）

研修報告② 協定大学

Chulalongkorn University

授業参加：3月2日（火）

Chulalongkorn University

学生交流：3月3日（水）

Singapore Management University

学生交流：3月5日（金）

International University- Vietnam National Ho Chi Minh City

学生交流 & 授業参加：3月8日（月）

University of Tartu

授業参加 & 学生交流：3月9日（火）

Aalto University

学生交流：3月10日（水）

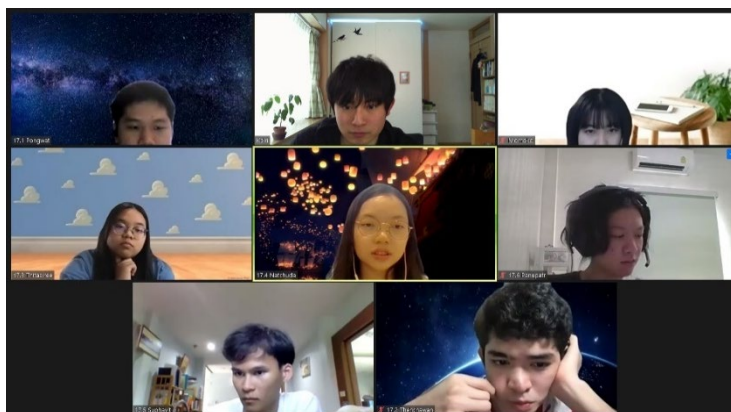
Chulalongkorn University での研修

Chulalongkorn University（以下チュラロンコン大学）での研修は、3月2日（火）の授業参加と3月3日（水）の学生交流の2日間にわたって行われました。チュラロンコン大学は、タイのバンコクにキャンパスを構える国立大学で、本学の協定校の1つです。商業及び会計、歯科、芸術といった38学部から構成され、タイ最高峰の大学であることから日本では「タイの東大」と呼ばれています。

1日目の授業参加では、「Data Science」「Product Design」「Disaster Mitigation」「Ecological Design and Pollution Management」の4つの異なるトピックにわかれ、各FSP生が興味をもった分野を受講しました。それぞれのトピックには、FSP生が10名程度、チュラロンコン大学の学生が50名程度参加していました。ここでは、「Product Design」と、「Ecological Design and Pollution Management」の2つの授業について紹介します。

「Product Design」は、世の中にある様々な製品や機械がどのようにデザインされていくのか、その視点やプロセスについて学ぶ授業でした。私たちが参加した回では、まず、コロナ禍で生じた諸問題を解決するための製品アイデアについて現地学生がプレゼンテーションをし、その後、プロダクトデザインに関して教授から講義を受けました。講義では、製品をデザインするときに、バリアフリーと、SDGsなどを意識した環境への影響の二つの視点が重要であることを教わりました。新しい製品アイデアを出し、それを具体的な形にしていく方法を考える実践的な授業は経験したことがなく、社会との結びつきが強い授業のあり方に刺激を受けました。自分もこれから大学での学びをどのように社会に還元していくか、常に考えながら授業を受けていこうと思いました。

一方、「Ecological Design and Pollution Management」の授業は、チャオプラヤ川の汚染や水道水の塩化といった環境問題の解決策を考えるものでした。授業の前半ではチュラロンコン大学の学生のプレゼンテーションを聞き、後半では私たちも1、2人ずつに分かれ、彼らのグループワークに参加しました。私たちには馴染みのな



【上写真：グループディスカッションの様子】

い問題であるため日本の状況と関連付けることが難しく、予め研修先の環境・政治などの情報や日本の状況を学習しておく必要性を実感しました。また、チュラロンコン大学の学生は英語力が高いのに対し、私たちは英語で考えを伝えることに苦戦しました。さらに、ディスカッションをする中

で自分たちに興味を持ってもらえないことがありました。この理由を考えたとき、自分と話すことのメリットを感じてもらっていないことに気付き、自身の魅力を伝え、共に対話することで何を相手に与えられるかを明らかにすることの大切さを実感しました。

2日目の学生交流では、チュラロンコン大学の学生と北海道大学の学生が、それぞれの大学の魅力に関するプレゼンテーションを英語で行い、その後コロナ禍における現状と将来の夢について意見交流をしました。授業形態について、チュラロンコン大学では全てオンラインで行われていて規制が日本より強いという違いを感じた一方で、家にいる時間が長くなり自炊をする機会が増えたなど日本人と同じような体験をしていることもわかり、異なる地においてもコロナによる変化に共感することができました。



How Attractive Hokkaido University Is!!!



【上写真：北大の魅力伝えるプレゼンテーション】

しかし、もどかしさを感じる面もありました。今回は初めての学生交流ということもあり、質問して答えてくれたことに対して「Thank you」としか言うことができない人が多くいました。さらにブレイクアウトルームがうまく機能せず50人以上での会話となったため、自分から前になければ発言が全くできませんでした。会話の開始と持続には強い積極性が必須であることを痛感し、翌日以降の他大学との交流につながる貴重な経験になりました。実際、他の学生交流時に、私たちは相手のプレゼンテーションに対して質問を投げかけることが多くなり、さらにその答えに対してもう一度質問し返すことも増えました。

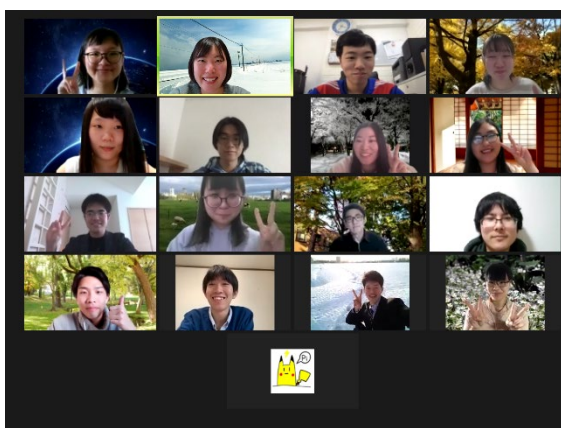
チュラロンコン大学での授業や学生交流を通し、大学や社会の多様な在り方を知り、さらに異なるバックグラウンドを持つ人たちとのコミュニケーションの取り方について改めて考えさせられました。こうした学びは、私たちが彼らと共にグローバルな社会で勉強や仕事をしていく中で、十分に協働できる関係を構築するために役立つものだと確信しています。（文責：新見）

Singapore Management University での研修

3月5日（金）に、Singapore Management University（以下 SMU）の学生とオンラインにて交流させていただきました。SMU は、会計学、経営学、経済学、情報システム学、法学、社会科学の6学部から構成される、本学の協定大学のひとつです。当日の活動では、プレゼンテーションやブレイクアウトルームでの活動を通して、Japanese Cultural Club（通称 JCC）の学生と交流を行いました。

初めに双方の学生より、互いの大学の魅力についてプレゼンテーションが行われました。SMU の学生からは、SMU 学内の施設や周辺施設の紹介をしていただきました。この紹介の中で、グループワークのためのスペースや、卓球やビリヤードができる娯楽施設が紹介されており、FSP 生一同が驚く場面が多々ありました。また、SMU ではセミナー形式で講義が行われ、グループ活動やプレゼンテーションを行う機会が多いとおっしゃっていました。これらのお話を伺って、整った学習環境の中で学生の考える力やコミュニケーション力が養われることにより、SMU が高い教育レベルを誇るのではないかと考えました。実際、後の質疑応答において SMU 生が質問に対して英語を用いて的確に返答する様子は、この教育スタイルが SMU 生の成長につながっていることを物語っているように思えました。また、質疑応答で FSP 生が英語に苦戦した際には、SMU 生が私たちの英語を理解しようとしている姿勢を見て、シンガポールでの異文化尊重の姿勢が表れていることを実感しました。そして、英語の流暢さはもちろんのこと、現在叫ばれている異文化尊重という言葉を体現している姿を見習わなければならないと感じたことが強く心に残っています。

次に、各ブレイクアウトルームに分かれ SMU 生と FSP 生で交流を行いました。学生交流では、互いの文化や学生生活に関する内容をはじめとして、短時間ながら様々な話題について語り合いました。初めの自己紹介では SMU 生が日本語で自己紹介していることに驚きました。難しいと言われる日本語を敬語を交えて流暢に話す姿を見て、私たちは少なくとも英語をより一層上達させなければならないと思いました。また、ブレイクアウトルーム内で北海道大学の風景を実際に紹介する FSP 生の行動力のように、



【上写真：SMU 生との交流の様子】

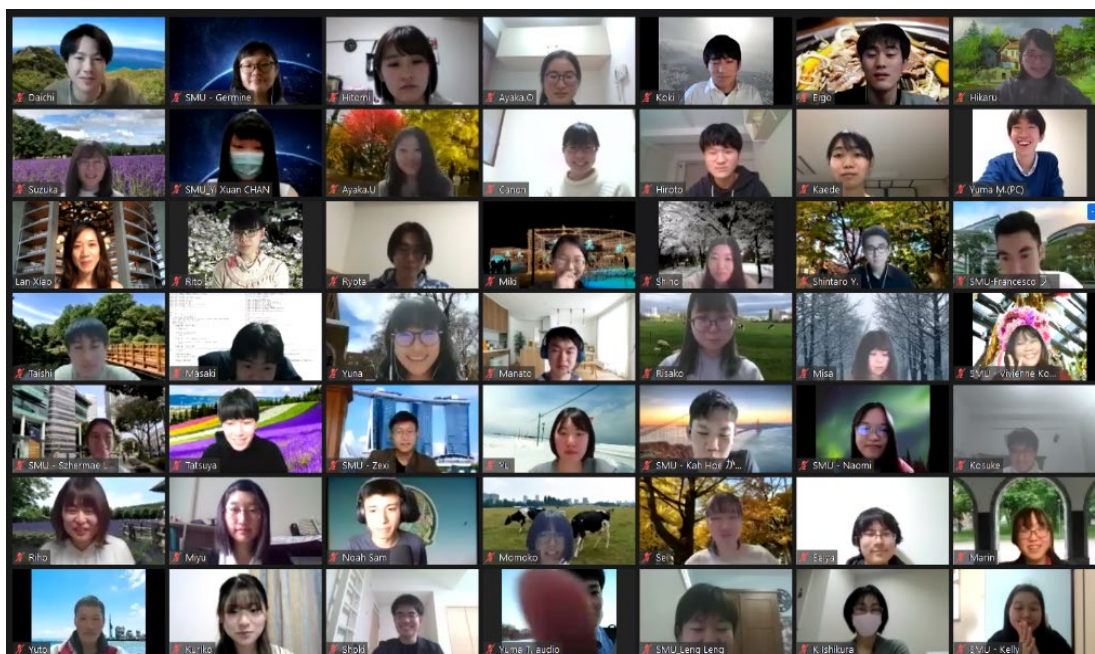
他の FSP 生からも得られるものがある充実した時間でした。更に、「シンガポールの学生はしばしば図書館で一日中勉強すると聞いたことがあるが、それは本当なのか」という FSP 生からの質

研修報告② 協定大学

問に対し、その場にいた SMU 生全員が図書館で一日中学ぶことが当然であると答えている様子を見て、私たちの勉強量の少なさを痛感しました。

この研修後も、連絡先を交換した学生との会話を通じて、SMU 生の学びへの食欲さを痛感しました。日本語のネイティブスピーカーと日本語で話すことのためにためらいを覚えず、間違いがあれば指摘を求める姿勢に圧倒されました。そして、本研修で出会ったこのような積極的な学生とともに学び、自分を高めていこうと決心しました。今後は、上記を含めこの研修で学んだことを実際に行動に移し、今後の私たちの成長につなげていきたいです。

(文責：吉田)

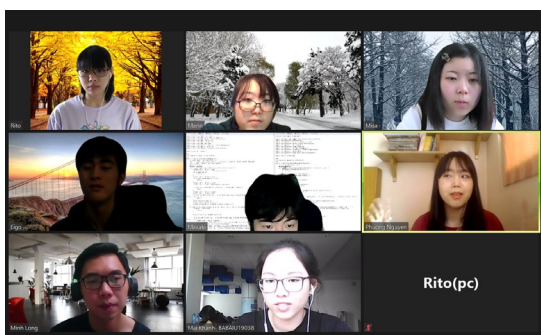


【上写真：SMU 生と FSP 生】

International University-Vietnam National University Ho Chi Minh City での研修

2021年3月8日(月)、International University-Vietnam National University Ho Chi Minh City (以下 IU) をオンラインにて訪問させていただきました。IU は北海道大学の提携校であり、ベトナム国内での英語を介した教育や世界標準の学位を取得するための教育の必要性から、国際志向のコミュニティを構築することを目指して、2003年5月に設立された大学です。IU では学生交流のち、Dr. Tran Thanh Tu による Critical Thinking の授業を受けさせていただきました。

学生交流では、事前に交流先の学生の方々のメールアドレスをいただき、交流当日以前からメールのやり取りやフェイスブックなどの SNS を活用した個人間での対話など、互いの親交を深め、



【上写真：ディスカッションの様子】

当日の交流に臨みました。当日は、お互いの大学についてのプレゼンと質疑応答をし、ブレイクアウトルームに分かれてディスカッションを行いました。各大学のプレゼンテーションは大学の歴史や特徴が盛り込まれていました。IU のプレゼンでは学部学科の紹介のほかにプレゼンターの方の研究室の紹介もあり、何を研究しているのかが分かりやすかったです。大学にも研究内容にもとても魅力を感じられる内容でした。IU のプレゼンに対しては FSP 生から

いくつか質問も出ていました。そのなかの 1 つに、「IU は全授業を英語で行っているのだから、それは学生にとって大変ではないのか」という質問がありました。その回答として「初めの 1 年は難しいと感じたが、毎日使っていくうちに徐々に慣れていった」と答えていました。日本の学生と同様に英語に難しさを感じつつも、努力する姿に感銘を受けました。

ブレイクアウトルームでの交流では各グループで様々な話をしました。例えば、サッポロビールやベトナムの食材であるフォーの話をしたグループもあったようです。私たちのグループでは、「現在の新型コロナウイルスによるパンデミックの状況」というトピックに関して、ディスカッションを行いました。日本とベトナムの政策や感染状況の違い、日常生活への影響の違いを理解することができました。ベトナムではロックダウン後は感染拡大を抑え込むことができていると、現在は外出や対面授業が許されているとのことでした。ベトナムの学生は「他国と比べるとベトナムは平和だ」と言っていて、同じ大学生でも国によって状況が違うということを実感しました。また、挨拶にベトナム語を交えると喜んでもらえました。私たちが海外の学生から日本語であいさつしてもらえると嬉しいのと同様に、彼らにとっても、自国について相手が知ってくれていると嬉しいのだということを改めて認識しました。学生交流では、ベトナムの学生と様々な話をすることができたことで、海外の大学生が何を感じ、どう考えているかを理解することができました。IU という世

研修報告② 協定大学

界に通用する人材を育てることを目標とした国際的な大学や、そこに通う学生から、英語に取り組む姿勢や国外に出て学ぼうとするモチベーションなど、自分自身が大きく成長しようと思えるような影響を受けることができたと感じます。IU 生でも英語には苦労したという話を実際に聞くと、自分達も努力を積み重ねていくことで、少しずつ英語力を向上させていこうという気持ちが強くなりました。

学生交流後の授業では、IU 生が対面で参加している授業にオンラインで参加させていただきました。授業は英語で行われましたが、やや専門的で難しい内容も簡単な単語と文法で説明されていて、とても分かりやすく、楽しい授業参加となりました。問題演習も盛り込まれていて、それに対して音声オンにして回答したりチャットに回答を書き込んだりと、ただ講義を聴くだけという形より、主体的に授業に参加することができたと思います。時間としては2時間半と、日本の授業時間と比べると一見長いように思われます。しかし、先生による説明の時間以外にも、演習の時間や代表者が前に出てホワイトボードに書いて確認する時間、近くの人と答えを確認しあう時間があり、内容に没頭することができたため、あっという間に感じました。また、先生が授業の大切な点一つ一つを確認してくださったり、大切なことを繰り返しおっしゃっていたりしたことが印象的でした。分からない場合にすぐに質問することが可能な雰囲気や、生徒の理解を確認しながら授業が進む様子は、日本の授業にももっと取り入れていきたい部分だと感じました。すべてが英語で進む授業であっても、分かりやすい単語と文法で構成されていて一つ一つ内容を確認しながら進む授業であれば、私たちでも取り入れていけるように感じました。



【上写真：Dr. Tran による講義の様子】

IU での学生交流、授業参加を通して、英語学習に対する意識と日本の授業に対する見方がそれぞれ変化しました。IU 生は英語を流暢に自信を持って話していましたが、最初からそうではなかったと知り、鍛錬を積むことで英語能力は向上するのだと明確に認識できました。また、日本で私たちが普段受けている授業と比較すると、IU の授業は、教授から一方的に向けられる講義ではなく、学生とのコミュニケーションを通じた双方向性の講義であり、より学びが深まったと感じました。このことから、今後の大学生活でも、自分の学びを深める上で、インプットだけでなくアウトプットをしていくことを意識していきたいと考えました。

このように、実際に海外の大学との交流を通じて、自分たちの大学生活における学びに対する姿勢を客観的かつ相対的に見ることができたのではないかと思います。FSP に参加してこのような機会を得られたことは、非常に充実した経験になりました。（文責：高橋）

University of Tartu での研修

3月9日(火)に、zoomを通じて、エストニア共和国の University of Tartu (以下 UT) にて、授業参加及び学生交流をさせていただきました。UT は人文科学、社会学、医学、理工学の 4 学部から構成されており、グスタフ 2 世アドルフによって 1632 年に創設された大学で、本学の協定大学の 1 つです。11 の分野において、世界で最も論文が引用されている科学機関の上位 1% にランクインするなどヨーロッパでも有数の大学です。

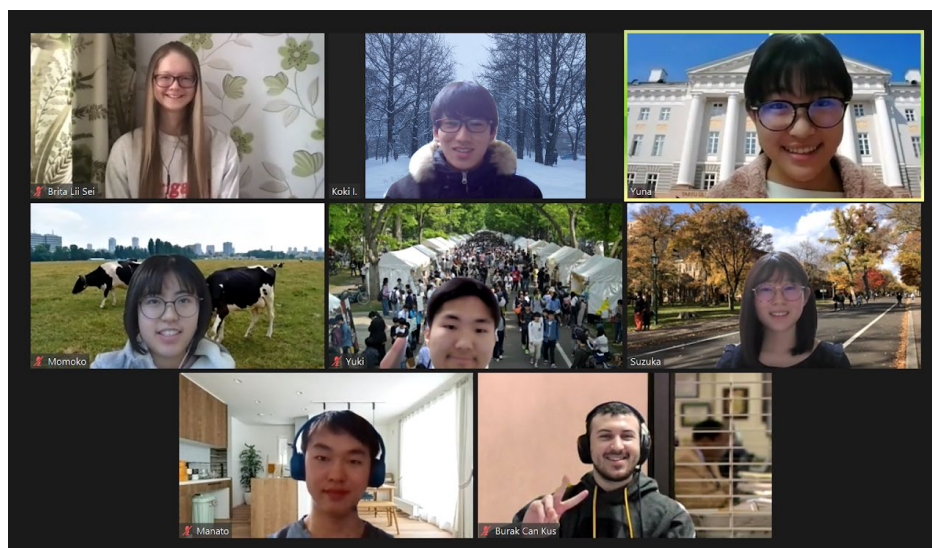
まず、私たちは UT 生とともに、Eva Liias 先生の講義を受けました。Eva Liias 先生は、華道などの日本文化に非常に興味を持っていらっしゃる方でした。講義の内容は、エストニアにおけるデジタル化とそれを日本に適応できるのかという内容でした。日本とエストニアの対比を踏まえ、デジタル化における日本の問題点を的確に指摘してくださいました。先生のご説明によると、エストニアは IT 先進国で、国民の 99% が運転免許証、健康保険証、ネット投票、ポイントカードなどを兼ねる電子 ID カードをもっており、政府が提供するサービスの 99% がオンライン化しているそうです。さらに、エストニアのデジタル化が進んだ要因には、小さな国ゆえの人口の少なさや、村同士が離れているためにインフラストラクチャーや投票などの公的な活動の整備が難しいことなどが挙げられるため、日本にそのまま適応することは難しいとお話しされていました。この講義を通して、日本とエストニアの特徴や文化、国民の考え方の違いを改めて認識し、どうしたら日本のデジタル化は進むのかということを考えさせられました。エストニアで成功したデジタル化のモデルは、エストニアだからこそ成功したものであり、日本がエストニアをモデルにしてデジタル化を進める場合は、それを日本にそのまま輸入するのではなく、日本の特性に合わせて取り入れる必要があると思いました。本プログラムがオンラインで開催されたように、これからも様々なもののデジタル化はより一層進んでいくように感じます。日本におけるデジタル化という問題に対し、これからのデジタル社会を生きていく私たちは、与えられたものをそのまま受け入れるというように受動的に考えるのではなく、どうやって取り入れていくのが良いのかと能動的に考えていくべきだと思いました。

また、興味深いと感じたのは、UT 生が講義の資料をパソコンで見のではなく、プリントアウトして紙の資料にして見ていたことです。IT 先進国であるエストニアでは、学生はみなパソコンを使うものだイメージしていたので驚きました。私たちもこのようにデジタルとアナログの良い点や悪い点を考慮したうえで、それぞれの良さを取り入れたり場面によって使い分けたりするなど、柔軟な対応をしたいと思います。

講義を受けた後は、お互いの大学に関するプレゼンテーションやその内容に関する質疑応答を行いました。UT の教育環境や留学制度について、実体験を交えたお話を聞きました。具体的な UT への留学のイメージを掴むことができ、将来的な長期留学の候補先として UT を非常に魅力的に感

研修報告② 協定大学

じました。また、FSP生の発表が終了した時に、UT生はチャットなどで多くのコメントやリアクションをしていて、熱意をもって授業に参加しているようでした。対面授業に比べ、相手の反応などが見えにくいオンライン授業でも、積極的な姿勢や双方向のやりとりを実践する姿を見習いたいと思いました。その後、複数のブレイクアウトルームに分かれて、「コロナ禍で留学やお互いの大学はどのような影響を受けたか」や「留学についてお互いの国ではどのように評価されているのか」というテーマについてディスカッションをしました。スケジュールではここまでで終わりだったのですが、時間に余裕のある先生方や学生はメインルームに残ってディスカッションを続けました。エストニアはデジタル化が進んでいたこともあり、授業も速やかにオンラインに移行したとUT生から聞き、IT先進国のエストニアと、これまでオンライン化があまり進んでこなかった日本との差を感じました。留学に対する国内での評価に関しては、留学経験の有無が就職活動においてどう影響するかなどのお話もあり、異なる専門分野や国籍の方々から様々な意見が交わされました。UT生の中でも出身国が異なると意見や事情も異なっていて、異文化はどこにでも存在することを肌で感じました。また、質問に答える中で留学する意味について改めて自分で考え直す機会となりました。UT生との交流は、第28回FSPの研修全体を通して4回目の協定大学との交流というもあり、チーム全体として積極的に英語で発言できるようになっていました。そのため、よりディスカッションのテーマを掘り下げることができ、濃厚な対話を行えたように感じます。この学生交流は、日本とエストニアの違いを知り、日本での考え方や物事の様式について考え直す良いきっかけとなりました。（文責：松田）



【上写真：UT生とのグループディスカッションの様子】

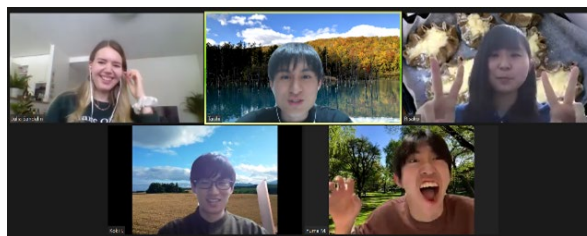
Aalto University での研修

3月10日(水)に、フィンランドの Aalto University(以下 AU)にてオンライン研修を行いました。AUは、2010年にフィンランドの主要3大学が統合して設立され、科学、技術、ビジネス、芸術のそれぞれの分野が融合された教育が特徴です。近年北欧諸国では、革新的な技術・アイデアを軸に企業や事業が急成長する「スタートアップ」が拡大していますが、AUは、日々斬新なアイデアが集うコミュニティを若い世代に提供することで、フィンランドにおけるスタートアップの顕著な発展に大きな影響を与えています。

今回の研修では、まずお互いの大学の魅力についてプレゼンテーションしました。私たちは、広大なフィールドでの学びや学内外での多様な交流などを北海道大学の魅力として紹介しましたが、AU生から北海道や札幌の食べ物について質問が出たときは、自分にとって身近過ぎて気づきにくい価値について、考えるきっかけとなりました。AU生の発表からは、フィンランドが誇る国民の幸福度や教育の質などについて改めて学んだほか、人々は森林や湖といった自然に近く、また四季を体感しながら暮らしているということを知り、私たちが住む北海道と共通する雰囲気を感じました。一方で、スタートアップ事業に国を挙げて取り組んでいるフィンランドの中でも、大学から始動したスタートアップの約半数がAUから生まれているという事実には驚き、果敢に挑戦を続ける学生が多く集うコミュニティが、学内、ひいては学外にも存在しているということを知りました。

その後、Startup CentreのNatalie Goudet様が同大学施設をご紹介くださり、フィンランドにおけるスタートアップの発展と、その背景に深い関わりを持つAUについて学ぶことができました。お話の中で特に印象的であったのは、「多くの学生が集まれば、その志は山をも動かすことができる」という言葉です。この言葉は、ごく一般の大学生などの若い世代が恐れずにスタートアップに挑戦することができる環境が整っており、また周りの人々には彼らを全面的に応援する精神的な風土が根付いているということを意味しているように思います。加えて、AUが学生や地域に対し提供するコミュニティでは、様々な意見やアイデアをもつ多様な人が集まりやすく、そこから生まれた革新的なアイデアや創造的な考えを尊重し、育てていく文化を大切にしていると感じられました。このような素晴らしい文化を人々に発信しているAUで研修することができ、私たちがこれからの学生生活のなかで取り組むべき課題について深く考えることができました。

最後に、日本語学習者や日本に興味のある学生が集う Nippoli (ニッポリ) という AU の学生団体の皆さんと、少人数グループに分かれディスカッションを行いました。互いの国の文化や言語、観光地などについて話し、AU生



【上写真：AU生とFSP生の交流の様子】

研修報告② 協定大学

のコミュニケーション能力や語学力、そして朗らかな振る舞いに助けられながら各々が楽しい時間を過ごすことができました。「ムーミン」や「温泉」などお互いがよく知っている言葉から会話が弾むことも多く、コミュニケーションの上では、語学力と同等に、相手への興味や関心を表現することが重要なのではないかと思います。

今回、惜しくもオンラインでの交流を余儀なくされたにもかかわらず、何より AU 生の皆さんの温かさに大いに助けられながら、充実した交流をすることができました。全研修のなかで最後の学生交流だったので、今まで以上にフラットな姿勢で、悔いのないように活動していた FSP 生が多かったように感じます。そうしたなかで、多くの人と出会い多様な価値観に触れることや、多様性を尊重しながら学ぶことの大切さに改めて気づくことができました。北海道大学の一学生として、これらの学びを日々活かしていきたいと思えます。(文責：川手)



【上写真：AU 生と FSP 生】

研修報告③ 企業・団体等

特定非営利活動法人 Seed to Table 伊能 まゆ 様

3月1日(月)

株式会社ニッポン 座間 富美彦 様

三井化学株式会社 郡司 達也 様

三井物産株式会社 水野 慎介 様

3月1日(月)

Nordic Ninja VC (JB Nordic Ventures Oy) 宗原 智策 様

3月3日(水)

国際連合児童基金 (UNICEF) 伏見 暁洋 様

3月5日(金)

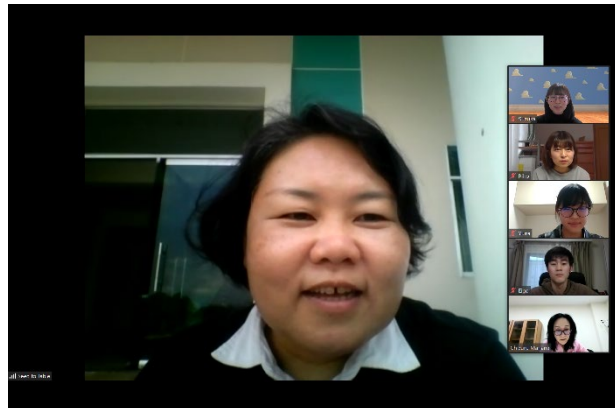
Prime Business Consultancy Pte Ltd 川村 千秋 様

3月11日(木)

特定非営利活動法人 Seed to Table 伊能まゆ様による御講話

3月1日(月)に、ベトナムより特定非営利活動法人 Seed to Table (以下 Seed to Table 様) の代表を務められる伊能まゆ様に zoom を通じて御講話を頂きました。Seed to Table 様は、ベトナムの農村地域を拠点に、地域の自然環境、文化、農業を守り、それらを活かしながら農村の人々の暮らしを改善する活動を行っておられます。

伊能様からは最初に、国の規模や民族、ドイモイ政策などといったベトナムの社会主義に基づいた産業の変遷などについてお話しいただきました。その後、Seed to Table 様の行っている活動や伊能様ご自身のお考えについてお話しいただきました。Seed to Table 様の行っている活動については、「アヒル銀行」と呼ばれるアヒルの貸し付け制度についてご紹介いただきました。FSP 生の多くが「御講演のうち印象に残



【上写真：伊能様の御講話の様子】

ったお話」としてこの制度について述べており、貧困世帯へのアヒルの貸付数を 25 羽としたのは、責任をもって飼うことのできる羽数について現地の人々との対話を通じて算定された結果であったということを実感に残った点として挙げていました。

伊能様は人材の育成にも力をいれておられ、その際には自身が黒子のような存在となって現地の若者のサポート役として活動されているというお話がありました。人材育成で大切にしていることとして「若者がひとりでやるチャンスを作り、困ったときだけサポートする」という考えを挙げてくださいました。私たちの中には人に教えるとき、全部助けてあげたくなくなってしまっている人もいたのですが、伊能様は相手のことを考えて、自分は黒子となって必要なものを見極めてサポートしていらっしゃいます。そうすることで若者は思い切り挑戦することができるのだと思います。私たちも自分中心ではなく、相手のことを思いやっていく姿勢を身につけたいと感じました。

また伊能様は「厳しくても将来を見据えたアドバイスが信頼関係を築くうえで大切」だとおっしゃっていました。自分の思っていることを話すことで相手も話してくれるようになり、信頼関係を築いていけるそうです。このお話の中で、私たちは「かわいそうという考えから発する言葉は相手のためにはならない」という言葉が特に印象に残っています。厳しい言葉を言うには勇気が必要であり、本当に相手を思っている人にしかできないことだと思います。本当に相手のためにできることは何なのかを考えて発言や行動をすることの大切さを再認識することができました。

研修報告③ 企業・団体等

御講話全体を通じて、伊能様は対話を大事にしている方だと感じました。伊能様は実際に現場に行き、自分の目で見て話すという対話の積み重ねを大事にされたそうです。その積み重ねが伊能様とベトナムの農家の方との信頼関係を築けた要因であると思います。対話をするということは、人間の良いところだけではなく、嫌なところも含めて受け入れ、向き合っていくということです。言葉も文化も違うベトナムの方々と対話をするということはたくさんの苦労があり、中途半端な覚悟ではできないことだと思います。しかし伊能様は「ベトナムの農村の人々の暮らしをよくしたい」という信念をもって、困難なことがあっても対話をし、問題を解決してられました。御講話を聞いて、私たちも伊能様のような熱意を持ち、人と対話することを恐れず、問題に取り組んでいきたいと思いました。（文責：杉山）



【上写真：伊能様と FSP 生】

**株式会社ニッポン 座間富美彦様
三井化学株式会社 郡司達也様
三井物産株式会社 水野慎介様
による御講話**

3月1日(月)に座間富美彦様、郡司達也様、水野慎介様より、zoomを用いて御講話を頂きました。お三方は皆、北大のOBであり、座間様は株式会社ニッポン様(以下、ニッポン様)にて、郡司様は三井化学株式会社様(以下、三井化学様)にて、水野様は三井物産株式会社様(以下、三井物産様)にて、勤務されています。

最初に、座間富美彦様よりお話を頂きました。座間様は現在、インドネシアのジャカルタにあるニッポン様の海外現地法人、PT. NIPPON FOODS INDONESIA 様にて御勤務されており、現地の企業へのプレミックス(調整粉: Prepared Mix の略)の販売を中心に行われています。

座間様は学生時代から旅行が好きだったことから、海外への関心はもともと高かったそうです。ニッポン様への入社後、日本で海外の方と仕事を通して交流していくうちに、海外への関心は「実際に海外で働いてみたい」という思いに変わっていったといいます。旅行を通じて得られた海外への興味が現在のキャリア形成に影響していると感じられ、学生時代から様々なことに挑戦し、興味を広げていくことが自分の可能性を広げることに繋がるのだと実感しました。

また、インドネシアで働く上で苦労されていることについてもお話いただきました。インドネシアでは英語は公用語ではないため、お互いに英語での意思疎通が上手くいかないことも多々あるといいます。そのため、座間様は現地の方々とコミュニケーションをとる際は、相手のバックグラウンドが違うことを理解し、何度も確認をするよう心掛けている、とおっしゃっていました。自分の「当たり前」を押し付けるのではなく、相手との違いを理解し、その違いにどう対応していくかが重要なのだと気づかされました。

次に、郡司達也様より御講話を頂きました。郡司様は、触媒研究への興味をきっかけに三井化学様に入社したのち、日本国内の工場でのキャリアを積み上げてこられました。郡司様は、当初から海外勤務を強く希望されていたわけではありませんでした。上司の勧めにより、現在はインドネシアでPET生産に携わっておられます。

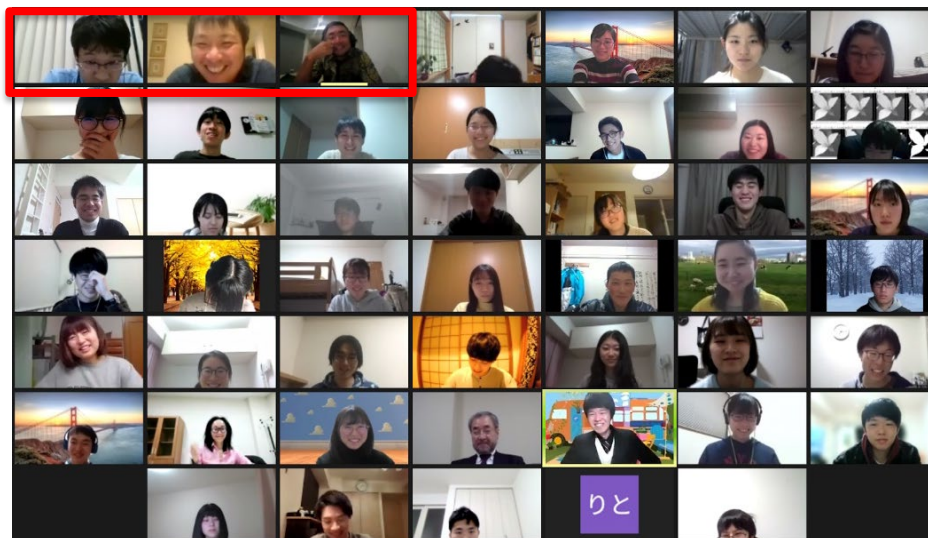
海外勤務の決定を快く受け入れた郡司様ですが、習慣や文化の違いから誤解・伝達不足が多く、インドネシアでのコミュニケーションには苦労なさったそうです。その経験を通して、相手のもつ習慣や文化などといった変えられないものを受け入れる姿勢と、自分にとっての最優先事項を譲れない姿勢のバランスが大事だと教えてくださいました。この教えから、人と自分との違いを受け入れることは相手を肯定することにつながるのだと感じると同時に、それでも自分にとって譲れないものを確立することは、自分の生き方の軸を形作るうえで大切な要素だと思いました。

研修報告③ 企業・団体等

最後に御講話いただいたのは、インドネシア三井物産様で御活躍されている水野慎介様です。三井物産様に入社後、インドネシア修業生として語学研修に参加したことが後の海外勤務につながったそうです。水野様は2、3年で部署異動を繰り返すジェネラリストとしてのキャリアを積み重ねています。段ボール原紙、電子ピアノ、ファッションECなど分野の異なる様々な部署への異動・出向を楽しみ、その経験をご自身の強みとする姿に刺激を受けた受講生も多くいたようです。

非常に限られた時間であったものの、キャリア形成のお話だけでなく2年間の休学期間中の上海留学、バックパッカー生活、単身アフリカ放浪旅といった水野様の学生時代の濃密な経験談も伺うことができました。様々なことに興味を持ち、なんでも楽しむ姿勢はその人の魅力に直結するということを教えて頂きましたが、まさにそれを実感する御講話でした。

御三方の御講話を振り返ると、「人間関係」「コミュニケーション」という共通したお話をされていました。「仕事は結局、人対人」という水野様のお言葉のように、仕事を進めていくうえでは互いをよく知り、信頼し合うことが重要であり、そのような人間関係の構築には良いコミュニケーションが必要だと感じました。良いコミュニケーションとは、相手の背景（言語、文化、習慣など）を理解し、相手の立場に立ってやり取りをすることです。これは仕事に限らず、日常生活でも同じく重要なことだと思います。日常のふとした会話の中でも、良いコミュニケーションを心掛けていきたいです。（文責：坂井）



【上写真：FSP生からの質疑の様子】

御講話者のご紹介：赤枠左から順に郡司様、座間様、水野様です。

Nordic Ninja VC (JB Nordic Ventures Oy) 宗原智策様による御講話

3月3日(水)に Nordic Ninja VC (JB Nordic Ventures Oy) 様 (以下 Nordic Ninja 様) の Managing Partner を務めていらっしゃる宗原智策様に、ヘルシンキより zoom を通して御講話をいただきました。Nordic Ninja 様は、パナソニック株式会社様等の日本の大企業から出資を受け、北欧・バルト地域にあるスタートアップ企業への投資を行っています。宗原様ご自身は大学卒業後、株式会社国際協力銀行に入社し、金融関連の業務に携わられました。そこで培った投資の能力を活かし、2019年に Nordic Ninja VC を設立なさいました。



【上写真：宗原様の御講話の様子】

御講話の中では、宗原様の御経歴や現在 Nordic Ninja 様が行っているベンチャーキャピタルとしての活動や、国際競争力を高めるために日本は今後どのようにあるべきなのかということ、そしてご自身のキャリア観について御講話いただき、最後に私たちにメッセージを贈っていただきました。御講話の後には質疑応答もさせていただきました。

宗原様が御講話の中で、「最先端技術について、日本には技術力はあるが、その技術力を活用したビジネスモデルを作って、稼ぐ力が足りないのではないかとおっしゃっていたことが特に印象的でした。そしてこの原因の背景として、宗原様から、日本では若者の起業を後押ししていくという風潮が他国に比べまだまだ弱く、日本社会全体として、スタートアップを取り巻くエコシステムが育ち辛いといったことを語ってくださいました。結果として、日本は30年前と比較して、国際競争力が大きく低下しているという現状を聞き、日本が今後世界と渡り合っていくためには、自分たち若者が積極的に行動していかなければならないのだ、ということ再認識させられました。

また御講話の後半では、「目の前にあるものに取り組んでいき、その歩んできた道を振り返った時にできているものがキャリアとなる」とおっしゃっていました。宗原様は様々な業務に携わってきましたが、これまでのキャリアを振り返ってみると、当時は遠い将来を考えていたわけではなく、日々目の前の山を登ることに注力していたら新しい景色と新たな山があったように感じられたそうです。興味のあるものは試し、多くの経験を積んだことによって他の仕事と今の仕事を比較でき、そのことが今の仕事をやり続けていくモチベーションにもなっていると話されていました。未来を予測して投資を行うベンチャーキャピタルの仕事を通して先のことを予測する難しさを知っているからこそ、未来よりも今ある確かなものに多く手を伸ばし全力で取り組むことの重要性を強調なさったのだと感じました。

研修報告③ 企業・団体等

宗原様は御講話の最後に、私たちにメッセージを贈ってくださいました。その中で私たちが特に印象に残っているのは「変えられるものと変えられないものがある」というお言葉です。宗原様は、不条理なものがあるとわかった時に変えられるものに目を向けなさいとおっしゃっていました。この言葉を受けて私たちは、新型コロナウイルス感染症の流行のような変えることのできない状況ばかりに目をやるのではなく、自身で変えられるものに主眼を置いて今あるものを精一杯自分の糧としていきたいと心を新たにしました。(文責：鶴飼)



【上写真：宗原様と FSP 生】

国際連合児童基金（UNICEF）伏見暁洋様による御講話



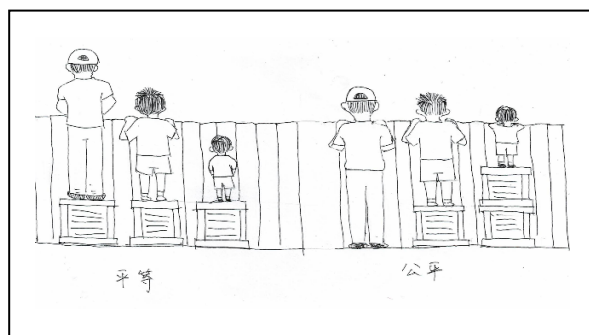
【上写真：御講話中の伏見様のご様子】※

3月5日に「すべての子どもの権利が実現される世界をめざして」を理念として掲げる国際連合児童基金 United Nations Children's Fund (UNICEF) の伏見暁洋様の御講話を拝聴しました。御講話の中では、伏見様のキャリア、取り残されてしまっている子どもたちに対する公平な教育、UNICEF の活動について説明をしてくださ

いました。

伏見様は大学を卒業後、日本語学校や青年海外協力隊で日本語教師として御活躍されました。その後 UNICEF で働くことを決意し、借金をしてまでロンドンの大学院に進んで「教育と国際開発」の分野で修士号を取得されました。このお話を伺って、大学を卒業した直後ではなく、本当に何かを勉強したいと思ったタイミングで大学院に進むという選択肢に気づくことができました。UNICEF に就職された伏見様は数年間、教育開発事業に従事された後、教育とはほとんどかかわりの無い、UNICEF 外部の企業や財団と連携をとる事業に携わられます。現在では再び教育に関わってお仕事をされている伏見様にとって、直接的には教育と関わらなかった数年間も無駄ではなかったそうです。ご自身だけのユニークなアピールポイントであるし、そのころに築いた人脈が今でも大切だとおっしゃっていました。どんな経験も前向きに捉え、自分の強みにしてしまう姿勢が印象的でした。

世界には「貧困」「障害」「性別」「言語」「文化」など、様々な要因で教育を受けられない子どもたちが存在しており、UNICEF はこのような取り残される子どもたちが教育を受けられるようになることを目指して活動をしています。伏見様は文化の違いが原因で取り残される子どもたちの例として、遊牧民を挙げてくださいました。私たちは、御講話後のグループでの話し合いで、彼らにどのように教育を与えるかについて考えてみました。その中で、「遊牧民として一生を過ごす彼らには独自の文化や生活スタイルがあるのに外部の人間が介入してもいいのか」という疑問が浮かびました。ここで「平等と公平は必ずしもイコールではない」という伏見様のお言葉を思い出し



【上画像：平等（左）と公平（右）の違い】

らにどのように教育を与えるかについて考えてみました。その中で、「遊牧民として一生を過ごす彼らには独自の文化や生活スタイルがあるのに外部の人間が介入してもいいのか」という疑問が浮かびました。ここで「平等と公平は必ずしもイコールではない」という伏見様のお言葉を思い出し

研修報告③ 企業・団体等

ました。平等がゆえに公平さが保たれないことや、公平さを重視して一見不平等な状況が生まれることもあります。遊牧民のように独立したコミュニティを持つ民族の例としてかつてのアイヌ民族がいますが、彼らには対等な関係で外部の人と交易できなかった歴史があります。そのため私たちは、独立したコミュニティを持つ民族に対して、平等に私たちと同じ教育を与えるのではなく、彼らの文化の持続可能性を考えて、不利益を被らないために必要な教育を与えることが教育の公平性ではないかと考えます。このように私たちは公平性の観点からどのように社会を見るか、相手をいかに理解できているかが重要だと感じました。

UNICEF は国連の組織であるため一律で大規模な支援をすると私たちは考えていましたが、そうではなく、国際性を活かして各地域に寄り添って活動しています。遊牧民もその例の 1 つでした。問題解決の糸口を探したり相手国や地域への理解を組織内で深めたりするには、客観的なデータと主観的な経験の使い分けが必要です。そのため、UNICEF では支援だけでなくデータを集めるための調査なども行っているということを知ることができました。支援や調査を行うには、現場に実際に赴いて現状を把握しなければなりません、安全でない地域であっても活動されていると聞いて UNICEF の教育に対する覚悟が窺い知れました。得られたデータは他の機関とも共有されるので、国や公的な機関にとっても利益になります。UNICEF の活動は世界と地域の架け橋となって、幅広く世界に貢献できる活動であり、現場の NGO とのつながりを深めればより良い活動となると思いました。

UNICEF の活動を続ける上では、相手を理解することと、地域とのつながりが大事であると考えます。伏見様のお話を通して、私たちは平等だけでなく公平という観点から物事を考える大切さを知ることができました。（文責：伊藤）



【上写真：伏見様と FSP 生】※

※伏見様の背景画像が反転していますが、研修時のままのスクリーンショットを使用しています。

Prime Business Consultancy Pte Ltd 川村千秋様による御講話

3月9日(木)に、シンガポールでプライムビジネスコンサルタンシー株式会社を立ち上げられた川村千秋様に御講話いただきました。プライムビジネスコンサルタンシー株式会社様は、シンガポールでの事業展開をする日本の会社向けにコンサルティングを行う会社です。年間15件から20件のクライアントを担当されており、1件の顧客に対して1年以上の間サポートすることもある、顧客との対話を大切にされている会社です。

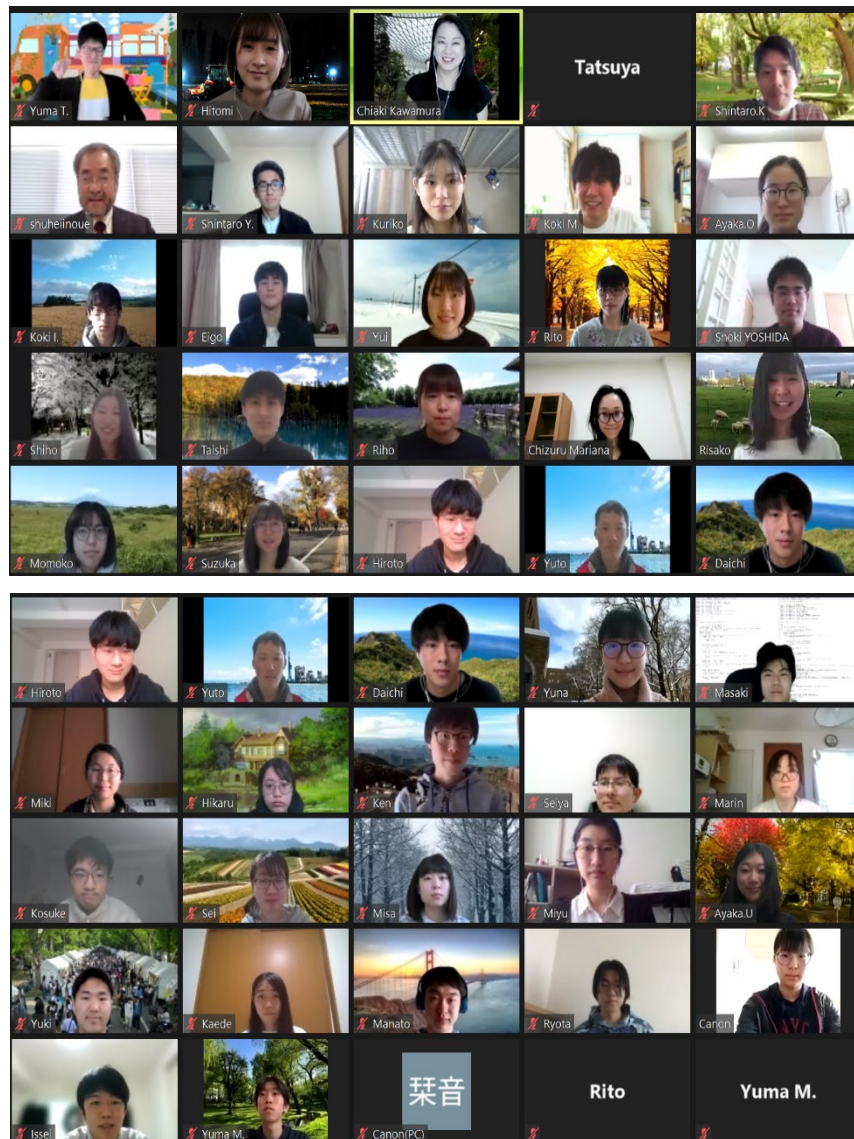
御講話ではまず、シンガポールの歴史的背景を踏まえた、現在の経済的・制度的な実情、国民性などを説明してくださいました。シンガポールはもともと資源の少ない国家であるものの、第二次世界大戦後から試行錯誤を繰り返し、急激な経済成長を遂げてきました。そこから現在は自国の経済的、技術的成長のために必要な制度、特に外資系企業の誘致やそれに伴う知的財産権保護の環境整備などを進めています。また、相互尊重精神の国民性を有しているシンガポールでは多民族国家であるにも関わらず、民族間対立がありません。川村様は、異文化とは「国境線からのみ生じるものではなく、例えば会社の合併においてそれぞれの企業カルチャーや業種などが交わることなど、それまで異なっていたものが交じり合うことによって生じるもの」であり、どこにでも異文化が発生しうる時代においては「言葉で伝え、それを行動で証明し、両者が分かり合う」という前向きな調整能力が求められている、とおっしゃっていました。FSPの研修では他国の学生や教授と関わる機会があり、異文化を意識する場面も多くありましたが、これから社会に出ていく際に他国という捉え方意外での異文化にも触れることを考えると、自分も異文化の一部であると認識・発信しつつ、周りの異文化も受け入れることができる人でありたいと感じました。

また、川村様の仕事をする上でのネットワークの築き方のお話が印象的でした。川村様が一番強調されていたのは、先入観を持たずに「自分から会いに行く」という部分です。またその中で、相手に関心を持つことが重要であり、自分が相手に何をしてほしいかだけではなく、自分が相手に何をできるかまで考える必要があるとおっしゃっていました。ただし、まだ社会に出ていない私たち大学生が持つ経験値やノウハウでは、相手に与えられる情報には限りがあります。そういった場合に強みにできるのは、それまでに育んできた「魅力」だと川村様はおっしゃっていました。この度の研修全体を通して「魅力」という言葉をよく耳にしたのですが、ネットワークを築く上で、人間的な「魅力」、ここでは「この人と話したい、仕事をしたい、この人に自分の知識を分けたい」と思われるような、人間性を感じてもらえる要素の必要性を感じました。そのために、自分の専門分野の勉強は勿論のこと、様々な分野に対する好奇心を持ち、好奇心をきっかけに教養や知識を深められる学生でありたいです。

お話の中で、川村様はイタリア語やフランス語の勉強、更にはコロナ禍での工夫など、多くのことにチャレンジされていると伺いました。そこには、現地の人と現地の言葉で直接話したいという

研修報告③ 企業・団体等

思いや、環境が変わっても成長しつづけたいという熱意が込められています。「常に頭を活性化させたい」とおっしゃっていましたが、目まぐるしい速さで進んでいる現代の社会において、私たちも常にさらなる成長を求めて日々学んでいかなければならないと感じました。（文責：広瀬）



【上写真：川村様と FSP 生】

研修報告④ 事後学習

振り返りミーティング

事後授業

第1回事後授業：3月17日（水）

第2回事後授業（成果報告会）：3月31日（水）

参加者の声

振り返りミーティング

2週間の研修期間中に、各研修が終わるたびにそれぞれの学びや気づきを振り返る「振り返りミーティング」を行いました。このミーティングでは、研修中の各自の学び・気づきについて意見を共有し、疑問に思ったことは質問し合うことによって、研修中の学びを深めることができました。

特に印象的だった意見を以下に紹介します。

研修を振り返って

- ・研修先の大学では、英語でのコミュニケーションがかなりのスピードで行われていて、スピーキング、リスニングともに能力不足であると痛感した。定型文を着実に暗記していくことから始めなければならないと思った。
- ・海外の学生達がとても友好的で話しやすい雰囲気であったと感じた人が多く、「自分たちはどうだったか？」という問いを考えることでこの後の学生交流をより実りあるものにしようと決意した。
- ・UNICEFの伏見様からのお話を聞いて、独自の文化をもつ遊牧民に教育は必要なのかという議論を通して、平等ではなく公平な教育とは何かについて、より深く考えて理解することができた。
- ・まず、小さいことから始めて、ステップを着実に踏み始めていくことはどの分野でも大切だということを学んだ。
- ・いろいろなことに興味をもったり、いろいろな人と話したりすることで、相手の面白さを引き出す人になりたいと強く感じた。

振り返りミーティングでの気づき～FSP生同士での対話を通して～

- ・日本の大学の講義ではなかなか質問しにくいなどといった、現在自分が持っている不満と照らし合わせて、他のメンバーは海外の大学の授業のよい所を見つけていて、見習いたいと思った。
- ・研修のなかで日本の大学と異なると感じた要素や、講義で印象的だった部分が私たちそれぞれで異なっていて、このように多様な価値観や意見を共有する場をつくることは、学生にとって大事なことだと痛感した。
- ・Nordic Ninja VCの宗原様から、成功には良いタイミングがあるというお話を聞いて、そのタイミングを活かすために必要なものについて議論した。メンバーそれぞれで意見が異なっていて興味深かったし、どれもが納得できるものだったので、成功にはたくさんの要素を準備せねばならないのだと気づいた。
- ・魅力的な人に、そして自分から相手に何かを提供できる人になれるよう、いろいろなところに興味を持ちたい！と考えている人が多かった。いろいろと将来について考えている人が多くて大変刺激を受けた。

研修報告④ 事後学習

このように、研修毎に取り組んだ振り返りミーティングによって、「問題だと感じたことやできなかったこと」という問題意識だけでなく、「今後も継続すると効果があること」や「次回の研修でさらに工夫してみたいこと」といった前向きな捉え方をも共有することができ、研修でのより深い学びにつながりました。

FSP 生全員が振り返りミーティングを単なる学びの報告会ではなく、各々が学び方や学びそのものを振り返る場として捉え、自主的に参加していました。それにより、私たちは新たな視点を獲得ことができ、有意義な時間を過ごすことができました。また、この振り返りミーティングを通じて、振り返りの重要性を改めて実感したので、研修が終わっても日常的に振り返りを継続していきたいです。（文責：三村）



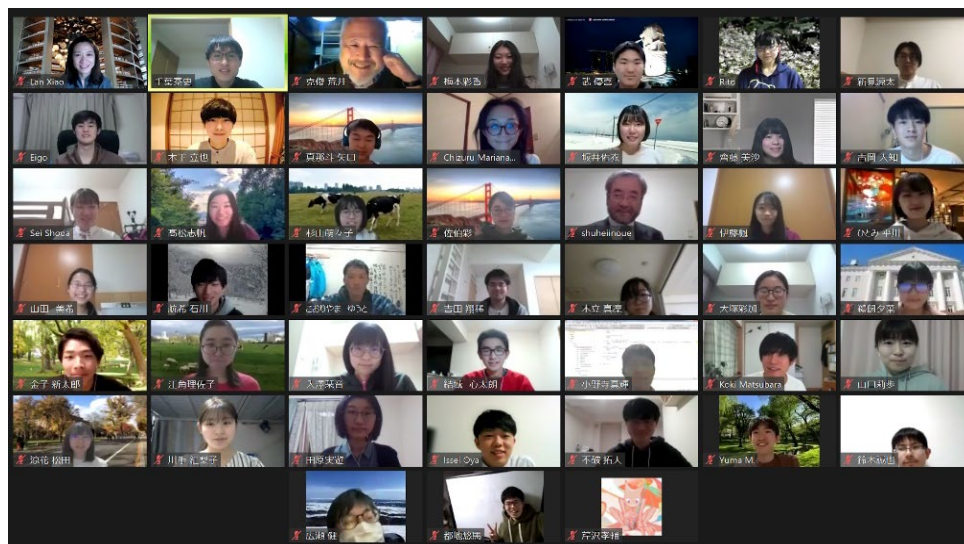
【上写真：振り返りミーティングでの FSP 生の様子】

事後授業

事後授業は研修を終えた次の週、3月17日（水）にオンラインで行われました。

第1回事後授業：3月17日（水）

第1回事後授業では、グループ5～8のFSP生が成果報告会にてプレゼンテーションする主題とサブトピックについて発表しました。各発表後には、他のFSP生からの質問やコメントが出ましたが、それらは全て今後のプレゼンテーションに向けたより良いアイデアにつながりました。その後、各FSP生同士、ブレイクアウトルームで研修を終えてどのようなことを学んだのかを話し合いました。FSP生41人は同じ研修を受けましたが、一人ひとりに異なった考え方・興味があることを実感しました。また、荒井先生からの「FSPは楽しかったか？」という問いに、FSP生は「楽しかった！」と回答していました。



【上写真：第1回事後授業でのFSP生及び先生方の様子】

第2回事後授業（成果報告会）：3月31日（水）

第2回事後授業では、FSP生以外にも本学の学生や教員、御講話者様をお招きし、研修で得た学びを共有する成果報告会がオンラインで開催されました。グループ3よりFSPについての紹介が行われた後、グループ5～8より第28回FSPを通じて得た学びについてプレゼンテーションが行われました。各プレゼンテーションはインタビューや中継など聴衆を惹きつけるための工夫がされており、特に本学の学生に対してFSPの魅力を十分に伝えることができました。加えて、様々な角度から捉えられた学びを共有したことで、第28回FSP生全員がセカンド・ステップへ踏み出すきっかけとなりました。FSPが今後の学生生活・社会人生活に生きることは間違いないでしょう！（文責：千葉）

参加者の声

FSP 生 41 人に対し、研修後にアンケートをとりました。このアンケートを読んで、本プログラムに参加したメンバーの生の声を知ってもらうことで、FSP への参加を悩んでいる人の参考になれば嬉しいです。以下 5 つの項目からは、私たちがどのような学びや経験を得たのか、切に理解できると思います。

Q.1 FSP に参加した理由を教えてください！

- ・自分の海外でのキャリアや将来について考えるきっかけになると思ったから。
- ・海外の学生と交流することで異文化を理解する姿勢を身につけたかったから。
- ・英語でのコミュニケーションを練習したかったから。
- ・FSP の活動を通して志の高い仲間を作りたかったから。
- ・将来ライバルとなる海外の学生の勉強への姿勢や現在の実力を知り、今後の自身の学びに生かしたいと思ったから。

Q.2 FSP オンラインに参加して最も向上した能力を教えてください！

- ・コミュニケーション能力
—オンラインで交流するなかで、お互いを高めあえる会話や意見交換の方法を学んだ。
- ・積極性
—自分から発言したり、新たに行動を起こしたりできた。
- ・仲間と協力する力
—多くのグループワークのなかで、皆の能力を生かすチームワークや時間管理について考え、実践した。
- ・異なる文化に対する理解力
- ・英語を聞いて英語で反応する力

Q.3 研修中で最も印象に残っている体験談を教えてください！

- ・毎日のチームやグループでの振り返りによって、自分にはない視点からの考えを知ることで、より深い学びに繋がった。
- ・チュラロンコン大学での授業参加で、グループワークのときに自分の考えが話し合いに反映されたこと。
- ・PRIME BUSINESS CONSULTANDY PTE LTD の川村様の御講話で、生活の 1 つ 1 つまで意識をしているからこそ、あの人生を作り上げられるということから、自分もまずは 1 日 1 日を大切にやるべきことをやることから始めようと思った。千里の道も一歩から。
- ・英会話は、意外と自分が知っている単語や文法の積み重ねで行われているのだと気づいた。
- ・学生交流で、日本のことが好きな海外の学生にたくさん会えたこと！自分も日本のいいところもっと知ろうと思いました。

Q.4 オンライン研修だからこそよかったと思うことを教えてください！

- ・アジアとヨーロッパの両地域での研修が行えたこと。
- ・オンラインで開催されたため、渡航費などがかからず無料でたくさんの国と交流できたこと。
- ・今回協力してくださった大学や企業の方々に実際に会おうと思うと、2週間でこのプログラムを終えることは難しかったと思うので、その点はオンラインで良かったと感じます。
- ・頻繁に会議を開くことができること。ほぼ毎日何かしらの会議ができるのは、オンライン研修ならではのなと思いました。
- ・時間と場所の制約が少なく、気軽に参加できたこと。

Q.5 FSPでの自分にとっての1番の学びを一言で表してください！

- ・相手と関係を築くには話すことが不可欠で、その会話をするには技術や知識が必要である。
- ・何事も、自分から挑戦していかないと道は開けない。
- ・多様な価値観や考え方に触れることで仕事や将来に対して考えるようになったこと。
- ・オンラインでもグループワークはちゃんとできる！
- ・海外の学生と比較した時の自分の立ち位置（能力的な差など）が知れたこと。

終わりに

本報告書を最後まで読んでいただき、本当にありがとうございます。

第28回 FSP オンラインは、その名の通り終始オンラインで実施されました。未知の冒険に不安を感じるなかで、同じグループのメンバーとも対面で会うことは叶わず、多岐にわたる活動をオンライン上で共に行うことには少なからず困難が伴いました。しかしながら、偏に各御講話者様や大学の皆様の御協力と、担当教職員や支援員、事務スタッフの皆様の御尽力のおかげで、他の何にも変えがたい貴重な経験をすることができました。アジア・欧州 6 カ国、計 10 に及ぶ機関で研修を終えた今、私たちの胸は自らのキャリア形成に対する熱い思いで溢れています。

私たちの学びを詰め込んだこの報告書が、自らの将来について考えている皆様にとって、新たな海外挑戦を捉えるための「ファースト・ステップ」となることを願っております。（文責：川手）

謝辞

この度、新型コロナウイルス感染症の世界的流行という状況下にもかかわらず、お忙しい中御講話くださった企業や団体の皆様、温かく私たちを迎えてくださった研修先の大学の皆様に対し、改めて感謝申し上げます。

また、本学におけるたくさんの方の御尽力と御支援に対しても、心より感謝いたします。準備期間から幾度となく丁寧に、時に厳しくご指導をくださった川端千鶴先生、井上修平先生、事前授業・事後授業の際に御指導、御助言くださった荒井克俊先生、肖蘭先生、そして、手厚くサポートしてくださった支援員や先輩ボランティアの皆様、石倉香理様、中島百恵様、川添沙弥佳様、葛西諒子様をはじめ事務スタッフの皆様、この度は本当にありがとうございました。

最後に、直接会えない中でもたくさんの苦労や学びを共にし、成長し合った 41 人の FSP 生全員に対し、この場を借りて深く感謝いたします。（文責：川手）

編集後記

コロナ禍で世界的に厳しい状況であるにもかかわらず、世界で活躍されている方々からの御講話や協定大学での授業参加や学生交流という貴重な機会をいただけたことは、大変貴重だったと感じております。特に、本プログラム担当の先生方や企業や団体の皆様の御講話は、私自身の仕事に対する姿勢だけでなく個人的な「生き方」について多角的に熟考する良いきっかけとなりました。また、この研修を通して得た留学に対する希望を忘れることなく、今後活かして参りたいと思います。本報告書には私たち FSP 生 41 名が得た多種多様な学びが詰まっておりますので、少しでも皆様に FSP の素晴らしさが伝われば幸いです。（梅本 彩香）

FSP の受講を決めた当初、私は海外とのオンライン研修のみに着眼していましたが、本プログラムの活動は想像を超えて多岐に渡っており、常に試行錯誤しながら活動してきました。そのなかで、特に「人との関わり方」について、まだまだ未熟ではありますが、将来社会に出て生きていくうえで必須となる常識やスキルを身につけられたように感じています。また、自分のキャリア形成を考えるために、自身の興味や関心、本当にやりたいことを知り、自分自身に対する理解を深めることもできました。この報告書を読んで、少しでも FSP に興味を持ってくだされば、第 28 回生の 1 人としてこんなに嬉しいことはありません。（川手 紅梨子）

成果報告書の編集を終えて、「こんなにもたくさんのことを学び、経験することができたのか！」とつくづく実感しています。この場を借りて、FSP に協力してくださった企業や団体の方々、海外大学の方々、また、FSP 担当教職員の方々に深く感謝申し上げます。私個人としては、FSP で得た学びと経験を今後の学生生活、そして社会人生活に活かし、「魅力的で、面白い人」になろうと思います。いや、なります！読者の皆さん、ここまで読んでいただきありがとうございます。FSP に参加しようと考えている方がこの報告書を読んで、ワクワクしていただけたら光栄ですし、FSP に参加するかどうか迷っている方にとってこの報告書が背中をそっと押す存在となれば幸いです。（千葉 泰史）

私は FSP に参加して非常に有意義な時間を過ごすことができました。英語で海外の授業を受け、海外の学生と英語で交流をする大学研修や、グローバルに活躍されている方々からの御講話は私にとって非常に刺激的でそれらを経験することにより自分の可能性が広がったと感じています。特に企業様からの御講話は非常に刺激的で海外で働くことに興味のなかった自分もいずれは海外で働いてみたいと思うようになりました。今回得た経験を決して無駄にせず、これからの留学、そして海外での活躍への一步を着実に踏んでいきたいと思っています。この報告書が次の FSP に参加しようと考えている学生の皆様のお役に立てることを願っております。（三村 雄真）



【上写真：研修中の写真より編集】



一般教育演習(フレッシュマンセミナー):グローバル・キャリア・デザイン2
第28回 FSP オンライン 全体報告書:2021年3月31日

編集

第28回 FSP オンライン グループ2 全体報告書編集担当

梅本 彩香 川手 紅梨子 千葉 泰史 三村 雄真

イラスト作成

都地 悠馬 田原 実遊

お問い合わせ先

北海道大学 高等教育推進機構 学務部国際交流課

TEL : (011) 706-8040

Email : ambitious@oia.hokudai.ac.jp

Website : http://www.oia.hokudai.ac.jp/be_global/

Facebook : <https://ja-jp.facebook.com/1ststepprogram/>

Twitter : <https://twitter.com/FSP28online?s=20>